

# コンプライアンス規程

## (目的)

第1条 この規程は、特定非営利活動法人にじ子屋(以下「この法人」という。)の倫理規程の理念に則り、この法人に適用又は適用の可能性のある法令、定款又は内部規程の遵守(以下「コンプライアンス」という。)上の問題を的確に管理及び処理し、もってその事業活動の公正かつ適正な運営に資するための組織及びコンプライアンス施策の実施及び運営の原則を定めることを目的とする。

## (基本方針)

第2条 この法人の役員及び職員(以下「役職員」という。)は、法令、定款及び内部規程の内容を真摯に受け止め、事業活動の業務遂行に際してはコンプライアンスを最優先する。

## (組織)

第3条 この法人のコンプライアンスにかかわる者として、最高責任者を理事長、役員のうち1人を統括責任者とする。

## (コンプライアンス委員会)

第4条 コンプライアンス委員会は、最高責任者を委員長とし、統括責任者及び外部有識者を委員として構成する。

2. コンプライアンス委員会は、以下の事項を遂行する。

- (1) コンプライアンス施策の検討及び実施
- (2) コンプライアンス施策の実施状況のモニタリング
- (3) コンプライアンス違反事件について原因の究明に向けた分析及び検討
- (4) コンプライアンス違反の関係者の厳格な処分の検討及び再発防止策の策定
- (5) 第3号の原因の究明に向けた分析及び検討の結果並びに第4号の処分及び再発防止策の公表
- (6) その他最高責任者が指示した事項

## (コンプライアンス委員会の開催)

第5条 コンプライアンス委員会は、定例委員会とし、委員長の招集により、毎年1回以上開催する。

2. 委員長は、必要があると認めるときは、臨時委員会をいつでも招集することができる。

## (報告、連絡及び相談ルート)

第6条 役職員は、コンプライアンス違反行為又はそのおそれがある行為を発見した場合は、速やかにコンプライアンス統括責任者に報告する。ただし、内部通報規程に基づく通報等を行った場合はこの限りでない。

2. コンプライアンス統括責任者は、前項の報告で、コンプライアンス違反行為又はそのおそれがある事象を知ったときは、直ちにその旨をコンプライアンス最高責任者に報告するとともに、事実関係の調査を行い、対応方針を検討し、理事長の承認を受けて、当該事象への対応を実施する。

3. 役職員は、緊急の事態等の事由により、コンプライアンス統括責任者を經由することができないときは、第1項にかかわらず、コンプライアンス最高責任者に直接、同項の報告をすること

ができる。

- 4 不正発生時には、原因究明、関係者に対する厳格な処分及び再発防止策を確実に実施し、その内容を公表する。

(懲戒等)

第7条 職員が第5条第1項から第3項に定める報告を適切に行わなかった場合には、情状によりそれらの者を、懲戒処分に処する。

- 2 懲戒処分の内容は、当該処分の対象者が役員（監事を除く。以下本条において同じ。）の場合は、戒告とし、職員の場合は、就業規則に従い訓戒、減給、出勤停止、普通解雇、降職、解任、降格、諭旨解雇、懲戒解雇とする。ただし、役員の場合、自主的に報酬を減額することを妨げない。

- 3 前項の懲戒処分は、役員については理事会が決議し、職員については、懲罰委員会の決定を受けて理事長がこれを行う。

(改廃)

第8条 この規程の改廃は、理事会の決議による。

附則 この規程は令和6年9月14日より実施する。（令和6年9月14日理事会決議）